平成十八 中入 ［前期］ 国語科 （その一） 金蘭千里中学校

解答はすべて（その七）の解答用紙に記入しなさい。

①　主人公の「僕（和也）」は田舎に住む中学生。毎年この地域では「狐がえり」が行われることになっている。これは子どもたちが豊作を願うための踊りを考えて大人たちに披露するという行事であるが、都会から来た転校生の三崎花子はなかなか参加しようとしない。「僕」は小学生のサナオやミヤコと一緒に鮎を釣り、三崎にプレゼントするという作戦をたてる。次の文章を読み、問いに答えなさい。

鮎の入った袋を大事に持って、三人で三崎の家の前に並んだ。「うまくいきますように」と、ミヤコがぱちんと手を合わせた。①サナオは成功することが目に見えているのか、嬉しそうにジャンプしながら三崎家のチャイムを鳴らした。

「あれ？」

三崎花子はドアを開けると、僕だけじゃないことに驚いた。

「ああ、ミヤコとサナオ。みんな狐がえりのメンバーやねん」

ミヤコは小さなお辞儀をして、サナオだけが元気よく大きな声で「こんにちは」と、挨拶をした。

「えっと、あの、これ」

僕は二人の紹介もそこそこに、すぐに鮎の入ったビニール袋を三崎に差し出した。

「何？」

「三人で釣ったんや。あげるわ」

三崎はAけげんそうに袋を受け取った。ミヤコもサナオも、（　＊　）顔で三崎を見つめている。ところが、三崎は中を見たとたん、小さな悲鳴をあげ、鮎の入った袋を地面に落とした。

「なんや。そないに驚かんといて」

僕は突然のプレゼントに驚いたのかと思い、鮎の入った袋を拾うと、もう一度、三崎に渡そうとした。だけど、三崎は手を出そうともしない。

「いや、こんなのいらない」

「へ？」

僕たちは予想外の三崎の反応に戸惑った。三崎が遠慮していると思ったサナオが「大丈夫。全部あげるから」と言って、三崎の手を取り、鮎の袋を握らせようとした。しかし、三崎は手を固く握って、受け取ろうとはしない。「どないしたんな」

「そんなの気持ち悪い」

三崎はうつむいたまま言った。

「何も気持ち悪くないって、鮎やんか。汚いもんやないで。今日、朝からみんなで釣ってん。新鮮やし、うまいんやで」

「いらないよ。そんなの」

「そう言わんと。食べてえな」

僕がもう一度、袋を三崎に押し付けると、

「気持ち悪い。絶対無理！」

と、②三崎は右手で袋を払いのけた。その弾みで袋は勢いよく落下し、中から何匹かの鮎が飛びだした。土に投げ出された鮎は、なんとも情けないaカッコウをしている。その様子にびっくりしたのか、鮎が断られたショックだったのか、突然サナオが泣きだした。

「いや、あの、ほら、生の魚ってあんまり見ないから……」

三崎が、しゃくりあげるサナオにおろおろしながら声をかけた。

「ねえ、ちょっと、そんなに泣かないでよ。だって、こんなぬるぬるしてそうな魚、渡されたら、誰だって怖いでしょう？」

★

受検番号	

平成十八 中入 ［前期］ 国語科 （その二） 金蘭千里中学校

三崎がなだめても、bイッコウにサナオは泣き止まない。
「ほんま、あんたって最悪や。ひどいことばっかりしよる。あんたなんか、こっから出て行ったらええのに」
③今まで黙っていたミヤコは、三崎の顔をにらみつけて怒鳴った。そして、サナオの手をとって、走り出した。
「ちょっと、ミヤコ、待ってや」
ミヤコは僕が声をかけても振り返らず、泣いているサナオを強引に引っ張りながら、走っていってしまった。
どうしてこんなことになってしまったのだろう。うまくいくはずだったのに、大失敗だ。三崎もミヤコもサナオも、みんな気を悪くしてしまった。物で釣ろうとした姑息な手段がだめだったのだろうか。僕は大きなため息をついた。
④三崎はサナオに泣かれ、ミヤコにでかい声で怒鳴られて、ぼんやりと立っていた。これでは狐がえりに誘うどころではない。「気にせんといて」
僕はそう言い残して、鮎を拾い集めると、ミヤコたちの後を追いかけた。

ミヤコもサナオもcソウトウ傷ついたのか、みんなで分けようと言ったのに、「もう鮎なんて食べたくもない」と受け取らなかった。仕方なく、八匹の鮎を持って帰ると、母ちゃんも姉ちゃんもとても喜んだ。夕飯のおかずが僕が釣った鮎だと知ると、遊んでる暇があったら勉強しろと、いつも怒っている父ちゃんまでも「でかした」とほめてくれた。
僕がぶつぶつ言いながら鮎をかじっていると、姉ちゃんが笑った。
「ほら、『都会のねずみと田舎のねずみ』って絵本があるやない。あんたが子どものときよく読んでたやつ」
「それがどないしたんや」
その絵本は覚えている。田舎で暮らしているねずみと都会で暮らしているねずみが、それぞれ互いの住みかをうらやましがって、住みかを交換する。だけど、いざ生活してみると、ちっとも楽しくない。都会のねずみは都会じゃないと生きていけないし、田舎のねずみは田舎が一番居心地がいいという話だ。
「それと一緒やん。喜ぶことはそれぞれ違うってこと」
「なんや。こんなうまいもん、喜ばへんのがわからんわ」
捕れたての鮎は、焼くと皮はパリッとして、味が濃く、苦味までもがすっきりしておいしい。
「まったく子どもやね」
三つしか歳が変わらないのに、姉ちゃんはえらそうに言った。
「和也かって、いきなりハイテクコンピュータをもらっても、困るやろう」
「それは嬉しいで」
「じゃあ、マクドナルドの商品券は？」
「そんなもん、店がここら辺にないのにいらんわ」
「ほらごらん。それと一緒やって。鮎かって、いらん人は、いらんのやって。受け口やしdブサイクな顔した魚やねんもん」
「なんやねん。そんなん鮎に失礼や」
僕は鮎の代わりに、姉ちゃんに怒ってやった。鮎は頭だっていいし、色のきれいなかわいい魚だ。
「和也だってさ、街に行って突然、妙な祭りに参加させられたら、うんざりするはずや。最近の和也って、都会のものは都会のものはって、なんか年寄りみたいやよ」
鮎と（　X　）がどう一緒なのかさっぱりわからないし、狐がえりは（　Y　）ではない。そう言い返そうと思ったけど、残念ながら姉ちゃんの言うことにはB一理ある。
都会の中学生と田舎の中学生は、（　Z　）ほどじゃないけど、やっぱり違いはある。僕にとってすごく貴重な物でも、三崎にとっては気味悪いものなのかもしれない。狐がえりだって、それと一緒。僕らは昔からやってるから疑問もないけど、三崎からしたらすごい変なことかもしれない。

★★

受検番号	

平成十八 中入 ［前期］ 国語科 （その三） 金蘭千里中学校

僕は都会に転校して、毎日ヤンキー風の中学生に「一緒にヒップホップダンスを踊ろうぜ」と誘われている自分を想像してみた。それは、とんでもなくうっとうしい。そのうえ、都会にだけeセイソクしている不気味な生き物を、おいしいから食えと、集団で持ってこられたら、やっぱりひいてしまう。こっそり田舎に引き返してしまいたくなるはずだ。きっと、三崎だって、毎日、田舎丸出しの僕にわけのわからない祭りに誘われ、いやな思いをしていたに違いない。⑤最近の僕は、狐がえりに踊らされてしまっていた。僕はそう考えると、じっとしていられなくなった。

（瀬尾まいこ「狐フェスティバル」一部改めたところがある）

（一）波線a～eを漢字に改めなさい。

a　カッコウ　　b　イッコウ　　c　ソウトウ　　d　ブサイク　　e　セイソク

（二）傍線①「サナオは成功することが目に見えているのか、嬉しそうにジャンプしながら三崎家のチャイムを鳴らした」とあるが、サナオは三崎が鮎をもらって喜ぶことを確信している。このことがわかるサナオの様子を表した部分を、本文中から十字以内で抜き出しなさい。

（三）二重線A「けげんそうに」とあるが、「けげん」ということばを正しく使っている文はどれか。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　知らない人から声をかけられて、中田さんはけげんそうな顔をした。
イ　応援していたチームが勝った瞬間、彼はけげんそうな声で叫んだ。
ウ　週末のパーティーに突然招かれた山田さんは、けげんそうに喜んだ。
エ　少年と犬のかわいそうな話を読んで、私はけげんそうに涙を流した。

（四）（　＊　）に入るもっとも適切なことばを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　珍しそうな　　イ　不思議そうな　　ウ　おろおろした　　エ　わくわくした

（五）傍線②「三崎は右手で袋を払いのけた」とあるが、どうしてか。次の文の（　Ⅰ　）（　Ⅱ　）に入るもっとも適切な三字のことばをそれぞれ本文中から探し、抜き出しなさい。

【（　Ⅰ　）に馴染みがなかった三崎にとって、プレゼントされた八匹の鮎はとても（　Ⅱ　）な物に思えたから。】

（六）傍線③「今まで黙っていたミヤコは」とあるが、どうしてミヤコはそれまで黙っていたのか。その理由としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　初めて会った三崎の都会的なことばづかいや派手な外見に、同じ女の子として強い劣等感を感じてしまったから。
イ　きつい性格である自分が狐がえりに誘うよりも、素直なサナオにまかせておいた方がうまくいきそうだったから。
ウ　三崎の言動に納得できないものを感じていたが、自分が余計なことを言って「僕」に迷惑をかけると困るから。
エ　三崎があまりにも強く拒絶するので、鮎を持ってきた自分たちが悪かったかもしれないと後悔し始めていたから。

（七）傍線④「三崎はサナオに泣かれ、ミヤコにでかい声で怒鳴られて、ぼんやりと立っていた」とあるが、このときの三崎の気持ちとして、適切でないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　大変なことをしてしまったとは思っているが、気持ちの悪い鮎を八匹も押し付けられたことに困惑している。
イ　小学生の二人を傷つけてしまったことを後悔し、おわびの印として狐がえりに参加させてほしいと思っている。
ウ　小さな男の子を泣かせてしまったので申し訳なく思っているが、どうすればいいのかわからず途方にくれている。
エ　出て行けというミヤコの言葉にショックを受け、田舎の子どもたちとうまく付き合っていく自信をなくしかけている。

（八）（　Ｘ　）～（　Ｚ　）に入るもっとも適切なことばをそれぞれ本文中から探し、抜き出しなさい。ただし、Ｘは十字、Ｙは四字、Ｚは三字のことばである。

★★★

受検番号	

平成十八 中入 ［前期］ 国語科 （その四） 金蘭千里中学校

（九）二重線B「一理ある」と同じ意味で「理」という漢字が使われている熟語はどれか。もっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 管理　イ 代理　ウ 理由　エ 理事

（十）傍線⑤「最近の僕は、狐がえりに踊らされてしまっていた」とあるが、これはどういうことか。「都会」「田舎」「価値観」「狐がえり」という四つのことばを必ず使い、八十字程度で具体的に説明しなさい。その際、指示された四つのことばの右横に線を引いておきなさい。（句読点を含む）

（十一）次の二文は本文中のどこに入れるのがもっとも適切か。入れるべき箇所を探し、その直前の七文字を書きなさい。（句読点を含む）

【どうしてみんな喜んでくれるのに、三崎はにこりともせずに怒るのだろうか。本当に都会っ子の考えていることはわからない。】

②　次の文章を読み、問いに答えなさい。

農業の開始によって、人類の生活は、住まいも含めて根本から変わった。

季節のうつろいに従い、獲物を追って移動することを止め、定住するようになる。一か所に（　A　）を据えて森を拓き、田畑を耕し、作物を育て家畜の世話をする。

①農業と定住によって人類の得たものは大きい。

移動しないから、食料を長期に貯めることができる。運ぶには重すぎる大きな土器や各種の道具を作ることも可能になる。年老いたり病やケガによって移動のむずかしい者も捨てられずにすむ。老人の記憶のなかには豊かな経験から得られた情報と知恵が詰まっている。誰がどこに住んでいるか決まっているから、人の付き合いは強くなる。定住によって、食料も道具も人間も、情報も知恵も人間関係も、量が大きくなり質が向上する。こうした人間の活動のすべてにわたる充実に支えられて、人類ははじめて、強くかつ安定した社会を実現した。

（注1）磨製石器によって森が拓かれて農業が盛んになり、農業のおかげで強く安定した社会が生まれる段階まで来て、はじめて人類は仮小屋ではない家らしい家を作ることができた。家は人の作る物のなかでは最大の物であり、ちゃんとした家を作るにはどうしても社会の安定と協力が欠かせない。

こうして、家は新石器時代に誕生した。

新石器時代の家は、aセンコウする旧石器時代の仮住まいと、どこが具体的にちがうんだろう。円形平面、木の骨組み、獣皮や樹皮のカバーといった基本は旧石器時代から続いている。ちがいは（　B　）ぶりで、家族が背を伸ばして寝られるまでに平面は広がり、天井は頭がつかえないほど高くなり、骨組みの木は、拾ってきた枝から伐り出した丸太や加工した棒に変わった。

こうして②旧石器時代の仮小屋を踏まえてスタートした新石器時代の家は、しだいに進化を見せる。

まず平面が広がるにしたがい、円形から四方形へと変わってゆく。面積の拡大にともない、柱と（注2）梁が出現する。長くなった（注3）棰を途中で支えるため、水平に梁を架け、梁を柱で支えるためである。さらに広がる時は、横に広がっていく。大きな正方形にならないのは技術的な問題で、屋根の高さをどんどん高くするのは労力がかかりすぎるからだ。横長であれば、屋根の高さはそのままに、横へ横へとbエンチョウすることができる。

丸太だけでなく、斧で削ったり割ったりして角材や板も作られるようになる。一見すると角材の方が作りにくそうだが、実は板の方がむずかしい。丸太の四辺を斧で削り落とせば角材になるが、板はそうはいかない。目の通った節のない大きな丸太を選び、斧とクサビで二つに割り、後は削る。この方法だと一本の丸太から二枚の板しかできない。

新石器のおかげで、材料と材料のつなぎ方も変わった。それまでは、木と木をつなぐにも、木に草や皮をしばりつけるにも、草をcアんだ綱か皮を裂いたヒモでしばるしかなかった。材と材の接合はしばることによって可能になった。「しばる」が人類最古の接合法なのである。

このしばる技術はその後も長く家作りで使われるが、太い木と木の接合においては、磨製石器が

★★★★

受検番号	

平成十八 中入 ［前期］ 国語科 （その五） 金蘭千里中学校

新しい技術をもたらす。たとえば柱の上に梁を乗せる時、柱の上端を削って一部を突起させ、梁は下辺に穴をうがち、柱の突起を梁の穴に差し込んで固定する。柱の小突起は「枘」、梁の小穴は「枘穴」と呼ばれるようになるが、「枘」は「へそ」の意味である。小突起がへそにたとえられるのは現在の目からは逆のように思うが、おそらく昔の人はみんな出ベソだったんだろう。

新石器時代に入り、農業が始まって人々が定住し家を作るようになると、バラバラに住むのではなく一か所に集まって住む集落が生まれる。集落のなかには、人々が集まって作業したり遊んだり歌ったり踊ったり、神さまに祈ったりする共同の場が生まれる。新石器時代の集落には大きなものがあり、トルコの（注４）チャタル・ヒュユクの遺跡は、日干し煉瓦で壁を作ったおよそ25㎡の建物が千戸も並んで続き、（注５）地母神への祈りの建物の壁には絵が描かれ、まさに出産中の姿をしたヴィーナス像が飾られていた。

また、家の出現は、人々の日々の暮らしに安らぎといこいをもたらす。冬は暖かく、夏は涼しく、陽が落ちて暗くなっても炉には火が燃えている。家のなかには風も雨も雪も入ってこないし、腹のへったクマやトラやライオンに襲われる心配もない。家族の絆もさぞ強まったことだろう。でも、③家の効果はそうした日常的なことや実際的なことだけではなかった。④人の心や精神にとって、きわめて重要な役割を果たした。

さきに述べたように、新石器時代に入ってはじめてちゃんとした家が実現した。ちゃんとした家は、屋根に葺いた茅や樹皮や獣皮さえdホシュウすれば三十年、四十年と、当時の人間の一生分は軽くもつ。人は一つの家で生まれ、死ぬことが可能になった。このことは何を意味するんだろう。

農耕・牧畜が始まってからでも、狩猟は併行して続けられていたが、狩猟時代とちがい、狩りが終わると獲物をもって決まった家に帰る。たとえば、秋の鮭の上る時期に、鮭狩りに出かけたとする。河辺の仮小屋をeネジロに魚獲りと燻製作りに励み、漁期が終わって獲物を背に帰路につき、峠の上から村の光景を望んだ時の気持ちを想像してみよう。自分が修学旅行や夏休みの休暇で長期に家をfアけた時のことを思い出してください。「⑤懐かしい」と思う。どうしてそう思うのか。もし自分がいない間に作り替えられていたら、ガッカリしこそすれ懐かしさはない。逆にわけのわからない怒りがこみ上げるかもしれない。家が変わっていなかったからこそ懐かしいという気持ちが湧いてきたのだった。懐かしいという心の動きは、喜怒哀楽の感情とはちがう不思議な感情で、人間にしかない。犬は古い犬小屋を振り返ってシミジミするようなことはしない。人間が、昔のものが変わらずにあるシーンに出会った時に、この感情が湧いてくる。

その時、自分の心のなかでは何が起きているんだろう。おそらくこうなのだ。久しぶりに見た家が昔と同じだったことで、今の自分が昔の自分と同じことを、昔の自分が今の自分まで続いていることを、確認したのではあるまいか。自分はずっと自分である。

人間は自分というものの時間的な連続性を、（　Ｃ　）や（　Ｄ　）の光景で無意識のうちに確認しているのではないか。

新石器時代の安定した家の出現は、人間の自己確認作業を強化する働きをした。このことが家というものの一番大事な役割なのかもしれない。

（藤森照信『人類と建築の歴史』一部改めたところがある）

（注１）磨製石器……石をとぎみがいて作ったもの。打製石器（石を打ち欠いて作ったもの）のみを使用していた時代を旧石器時代、打製石器とともに磨製石器が使用されるようになった時代を新石器時代という。

（注２）梁……上部の重みを支えるため、あるいは柱を固定するために柱上にかけわたす水平材。

（注３）棰……屋根葺き材の下地として屋根の上端から下端にわたす材。

（注４）チャタル・ヒュユクの遺跡……トルコ中南部にある遺跡。

（注５）地母神……生命を生み出す母なる大地の神。

（一）波線a～fを漢字に改めなさい。

a　センコウ　　b　エンチョウ　　c　アんだ

d　ホシュウ　　e　ネジロ　　f　アけた

★★★★★

受検番号	

平成十八中入　［前期］　国語科　（その六）　金蘭千里中学校

（二）（　A　）について、問いに答えなさい。

（1）（　A　）に入るもっとも適切なことばを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　顔　　イ　首　　ウ　肝（きも）　　エ　腰（こし）　　オ　頭

（2）次の1～5の（　）にも、（　A　）と同じように体の一部を表す漢字一字のことばが入る。その漢字一字のことばをそれぞれ答えなさい。

1　今年の夏休みに東京まで（　）をのばしてみた。

2　かくし事をせず、（　）をわって話し合おう。

3　あの人は高い学歴を（　）にかけるところがある。

4　対戦相手は強いので、（　）をかりるつもりで試合にのぞんだ。

5　バスの中でさわぐとは、（　）にあまる行動だ。

（三）傍線①「農業と定住によって人類の得たものは大きい」とあるが、「得たもの」とは何か。本文中から八字で抜（ぬ）き出しなさい。

（四）（　B　）に入るもっとも適切な漢字二字のことばを本文中から探し、抜き出しなさい。

（五）傍線②「旧石器時代の仮小屋を踏（ふ）まえてスタートした新石器時代の家は、しだいに進化を見せる」とあるが、具体的にどう「進化」したのか。次のア～キの中から適切なものをすべて選び、解答欄（かいとうらん）の記号を〇で囲みなさい。

ア　獣皮や樹皮のカバーをつけるようになった。

イ　屋根の高さを高くして家の面積を広げた。

ウ　形が円形から四方形へと変わった。

エ　柱と梁が出現した。

オ　木に草や皮をしばりつけるのに、草の綱や皮のヒモを使うようになった。

カ　角材や板が作られるようになった。

キ　材と材の接合で、枘・枘穴のような新しい技術がもたらされた。

（六）傍線③「家の効果はそうした日常的なことや実際的なことだけではなかった」とあるが、「日常的なことや実際的なこと」とはどんなことか。答えにあたる次の文の（　ア　）～（　ウ　）に入る適切なことばを、それぞれ指定した字数で答えなさい。

【快適な（　ア　二字　）や（　イ　三字　）を維持（いじ）し、（　ウ　二字　）条件や外敵から守ったり、日々の暮らしに安らぎといこいをもたらしたり、家族の絆を強めたりすること。】

（七）傍線④「人の心や精神にとって、きわめて重要な役割を果たした」とあるが、どんな「役割を果たした」のか。本文中から二十字以内で抜き出しなさい。（句読点を含（ふく）む）

（八）傍線⑤「懐（なつ）かしい」とあるが、どんな時のどういう気持ちのことか。本文中のことばを用いて、「～気持ち。」の形で四十字以内で説明しなさい。（句読点を含む）

（九）（　C　）（　D　）に入るもっとも適切な漢字二字のことばを本文中から探し、それぞれ抜き出しなさい。

（十）次のア～カの中から、本文の内容と合っていないものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア　農耕や牧畜が始まってから、人間は一か所に定住するようになり、狩猟は行われなくなった。

イ　農耕や牧畜が始まってから、人間は家族をはじめとして、人間関係を広げ、強化していくようになった。

ウ　旧石器時代には、人間は狩猟による生活をしていたので、老人の豊かな経験は大切にされた。

エ　旧石器時代には、人間は食料を貯めたり大きな土器や道具を作ったりすることはなかった。

オ　家の出現によって、人間は一か所に集まって住むようになり、共同の場を作って作業したり楽しんだりした。

カ　家の出現によって、人間は快適さやいこいを手に入れただけでなく、精神的にも成熟していくことになった。

★★★★★

受検番号	

平成十八中入　［前期］　国語科　（その七）　金蘭千里中学校

①

（一）a　b　c　d　e

（二）　（三）　（四）

（五）Ⅰ　Ⅱ　（六）　（七）

（八）X　Y　Z

（九）

（十）

（十一）

②

（一）a　b　c　んだ　d　e　f　けた

（二）（1）　（2）1　2　3　4　5

（三）　（四）

（五）ア　イ　ウ　エ　オ　カ　キ

（六）ア　イ　ウ

（七）

（八）

（九）C　D　（十）